

公益法人 第15期

2025（令和7）年度

事業報告

2025年4月1日から
2026年3月31日まで

公益財団法人
ベルマーク教育助成財団

ベルマークには公益財団法人として認められた事業が2つあります。

公益事業1は、参加団体（学校等）がベルマークを集め、自校の設備を充実させることを財団がお手伝いします。ベルマーク運動の本体ともいえます。

公益事業2は、事業1にともなって財団にいただく寄付を原資に、生徒数が少なくマーク集めが困難なへき地校、災害被災校、特別支援学校等に財団が教材を寄付します。

ベルマーク財団は事業2を実施するために事業1の仕組みとともに、1960年に設立されました。

2つの公益事業と、それを安定して継続するための財団運営にわけて、2025年度に実施した事業を報告します。

《公益事業1》

◆参加団体の動き

参加団体数は25,023団体（2026年3月末）

2025年3月末比で△435校です。少子化による学校統廃合などで全体として微減の傾向は続いています。団体の過半を占める小学校の参加率は70.5%、中学校は61.2%とほぼ前年と同水準を維持しています。

〈参加団体＝学校等〉25,023団体

	2026年3月末	2025年3月末	増減
参加団体数	25,023	25,458	-435
幼稚園	4,267	4,405	-138
小学校	13,295	13,539	-244
中学校	6,018	6,074	-56
高等学校	1,156	1,155	1
大学	92	93	-1
公民館	195	192	3

・協賛会社数は42社です（2026年3月末）

グリーンスタンプ株式会社が2026年3月に退会し、協賛会社数は42社となりました。物価上昇による予算の見直しが理由です。

・協力会社数は12社です（2026年3月末）

セイコータイムクリエーション株式会社が2026年3月に退会し、協力会社数は12社となりました。25年4月にグループ内での事業再編が行われ、電池式の掛け時計やストップウォッチを取り扱っていたクロック事業を別会社に事業譲渡し、協力会社としての継続が難しくなったという理由です。

・参加団体の1年間の検収点数は2億3,892万点
2025年3月末比で111.7%です。財団基幹システムが安定稼働に入り、検収業務が改善しました。

2025年度 238,917,638点 (前年度比 111.7%)

2024年度 213,916,567点

ベルマーク運動が始まった1960年からの累計集票点数、30,277,546,110点、ベルマーク預金として累計302億円を超えました。

・参加団体のお買いものの額 3億497万円

協賛会社から提供いただいたお金と、これまでのベルマーク預金を合わせて、参加団体がこの1年間で購入した教材費等の金額です。猛暑による外で遊ぶボールや遊具等の購入の減少、また昨年まで注文が多かった日よけ対策のテントや大型扇風機等の設備が整ってきていること等が影響したと考えられます。

2025年度 304,972,008円 (前年度比 86.2%)

2024年度 353,762,133円

1960年からの累計は、29,526,537,310円＝約295億円になりました。

◆ベルマーク運動説明会

コロナ禍以降、社会や学校の環境の変化の中、対面方式の説明会の代替として、財団ホームページ上で「バーチャル説明会」を実施しています。このバーチャル説明会は、PTAをはじめとする参加団体の皆様が、いつでも・どこでも・何度でも視聴できることから、たいへん好評です。ベルマーク運動の意義や仕組みがよくわかる内容となっております。

◆ホームページ・刊行物

・財団ホームページ

参加団体に必要な情報をできるだけ迅速に発信しています。各協賛・協力会社にとっても企業情報を知らせる魅力的なページとなるように情報を積極的に掲載しています。また、「ベルマーク活動報告書2025」として、2025年度のベルマーク財団の活動がまとめてわかるように、電子データ版を掲載します。

・ベルマーク新聞

2018年度からデジタル化し、ホームページ上で毎月発行しています。タイムリーで新鮮な情報掲載をモットーとし、各参加団体の取り組み、協賛・協力会社からのお知らせ、ボランティア活動などを取材し掲載しています。

・なるほど！ベルマーク運動

財団創立65周年の記念事業のひとつとして、子どもたち向けの小冊子「なるほど！ベルマーク運動」を改訂しました。ベルマーク運動を子どもたちに理解してもらえるよう、運動の役割やしくみだけでなく、おもしろいウラ話も掲載しています。イベントなどで配布できるよう2万部を印刷しました。

◆学校外での集票

企業や自治体、個人から財団に直接送られてくる寄贈マークは5,785件に上り

ました（前年度比 89.5%）。今後も財団へ直接マークを寄贈できるPRを継続してまいります。

◆ベルマーク大使

現在 10 名の方々（運動の牽引役、熱心な協賛会社の方、発信力のあるタレントさんなど多彩な顔ぶれ）にそれぞれのお仕事、生活の場で、ベルマークの普及、応援にご尽力いただきました。

◆ベルマークTシャツデザインコンテスト

財団創立 65 周年の記念事業の一環として、「ベルマークTシャツデザインコンテスト」を開催しました。財団ホームページだけでなく、InstagramをはじめとするSNSでも広く告知を行った結果、世代を問わず多くの方々からご応募をいただき、250 点を超える魅力あふれる作品が寄せられました。

《公益事業2》

財団がへき地校、被災校、養護学校等に援助した物品額は、2025 年度総額で 5,310 万円相当でした。運動が始まってからの累計額は 50 億円を超えています。ベルマーク活動の原点であるへき地校の設備支援は、前年度同様 100 校に実施しました。災害で被災した学校への支援は、被災から 14 年が経過した東日本大震災被災校に対して継続して行いました。24 年 1 月に発生した能登半島地震についても緊急友愛援助を募集し、25 年度には被災した学校に順次支援が届きました。

援助先ごとの概要は以下の通りです。

◆へき地学校

総額 2,193 万円相当

- ・うち設備 全国 100 校 2,006 万円 視聴覚・理科機器、体育用品など
- ・うちソフト支援 9 校 187 万円 理科実験教室・一輪車教室を実施

◆諸学校

総額 931 万円相当

- ・養護学校 20 校 視聴覚機材等
- ・盲学校 9 校 卓上型拡大読書器
- ・聾学校 10 校 短焦点プロジェクター
- ・病院内学級 3 学級 希望の教材・備品等

◆災害被災学校

総額 1,790 万円相当

- ・東日本大震災（岩手・宮城・福島 計 103 校）に 600 万円相当の学用品やバス代援助等

総額には、財団の予算とウェブベルマーク協会からの助成を加え、ボランティアや企業、一般の方々が集めて財団に寄贈してくれたベルマークが含まれています。うち、教職員の防災力を高める取り組みをしている宮城教育大学「311いのちを守る教育研修機構」に50万円を援助しました。

- ・能登半島地震被災校28校に各2回、計1,140万円相当を援助

◆開発途上国の学校

総額 350万円相当

アジア・アフリカなどで活動する9団体を通じ9カ国に援助しました。この援助は、参加団体（学校等）がベルマーク預金から寄付してくださる資金と財団予算をあわせて実施しています。参加団体からのこの寄付を友愛援助と呼んでいます。

◆日本人学校

総額 46万円相当

ドイツ、スペイン、インドネシアの計4校に支援しました。

《財団運営》

◆システム改修

「マーク仕分け・集計作業の自動化」をベルマーク運動に関心を持つ企業と実用化の共同研究を進めています。（報告3を参照）

財団の業務パソコンをWindows11搭載のパソコンに更新しました。

◆2025年度に受けた大口寄付

- ・ミズノスポーツ振興財団 2,000,000円

1971年から55年連続で総額9,950万円になりました。

- ・ジブラルタ生命保険株式会社 1,000,000円

へき地校向け出前教室の充実への寄付です。

◆財団役職員数

- 常勤13人(2026年3月31日現在)